

ドル/円相場のトレード戦略

ドル/円 週足】



■中期展望

本年年初に展望では、2018年の世界経済環境に関しては2017年の延長線上にあり、大きく変化する要因は見当たらず、通貨の強さも2017年の構図をおおむね引き継ぎ、ドル/円に関してはレンジ内で安定的に推移する可能性が高いと考えてきました。

堅調な米景気、FRBの利上げ観測の継続はドルを下支えし、緩やかなドルの上昇が期待できるため、大幅なドル下落のリスクは低いように考えられるものの、2017年12月のFOMCで発表されたドットチャートによると2018年は3回の利上げが予想であり、その点から考えると米国の長期金利の上昇幅は限られたものとなる可能性が高く、ドルの上値も限りがありそうで、昨年の高値水準が上値目標としてきました。

しかし、1月の相場は、年初に113円台の高値を付けて以降、ドルはじり安となり1月後半では108円前半まで値を下げました。

さらに2月に入ると、トランプ米大統領が洗濯機と太陽光パネルに対してセーフガード（緊急輸入制限）を発動することに署名し、貿易摩擦に対する懸念が拡大したことやムニューシン米財務長官が「弱いドルは貿易面で米国の利益になる」と発言したことなどをきっかけにドル安の流れが強まり、さらに米金利の急上昇と米株の急落を背景としたリスク回避姿勢の強まりから円買いが強まり、下値めどとしてきた作戦安値107円水準を下回り105円台に突入しました。

良好な米経済指標が示すように米国経済は堅調であり、日米の景況感格差や金融政策の方向性など

ドル/円相場のトレード戦略

といったファンダメンタルズから考えてさらに一方的にドル安が進むとは考えにくいものの、ドルの大きな理版運ども期待しにくい状況となっています。

本年はレンジ相場が継続するという見方に変化はないものの、想定レンジを100円～115円程度に下方修正する必要があるようです。

また、昨年から続いてきた三角持合いを下方ブレイクしたことで、これまでのサポートラインが上値抵抗となる可能性は高く、目先は109円水準が戻りのめどとなりそうです。

■短期展望

先週は、106円台でスタートした後、一時105円台へ下押す局面もあったものの、週末に向けドルが買い戻される動きとなりました。

予想を上回った米ADP雇用統計や米国株の反発を材料に5日には2月28日以来の高値となる107円49銭まで上昇し、107円水準で週を越えています。

今週は、米中の貿易摩擦が懸念される状況に変化はないものの、ドルの下値は限られたものとなりそうです。

シカゴ・マーカンタイル取引所(CME)の通貨先物市場で投機筋による円の持ち高が、2016年11月22日以来ほぼ1年4カ月ぶりに買い越しに転じていることや新年度入りした本邦勢による対外証券投資フローが活発化する可能性など需給面がドルを下支えする要因といえます。

もっとも、ドルの上値を追っていく材料が出ない場合は、108円水準では戻り売り圧力が強まることから、今週は105円～108円での取引が続くと考えます。